

きらぼし銀行「お客さま本位の業務運営」 2018年度の取組み状況

1. お客さまとの対話を重んじ、お客さまの最大の満足を共に目指す指標

・2019年3月末時点における、きらぼし銀行の投資信託・保険のラインナップ商品数は以下のとおりです。

【投資信託】

取扱ファンド数	121	商品数比率
国内株式	16	13%
国内債券	3	2%
海外株式	28	23%
グローバル	11	9%
先進国	9	7%
新興国	8	7%
海外債券	25	21%
グローバル	7	6%
先進国	11	9%
新興国	7	6%
REIT	13	11%
バランス型	27	22%
その他資産	9	7%

【保険】

一時払い保険取扱商品数	17	商品数比率
円建て	5	29%
定額個人年金	2	12%
変額個人年金	0	0%
終身保険	3	18%
外貨建て	12	71%
定額個人年金	3	18%
変額個人年金	0	0%
終身保険	9	53%

平準払い保険取扱商品数	16	商品数比率
個人年金保険	3	19%
終身保険	3	19%
医療・がん保険	7	44%
学資保険	0	0%
介護保障保険	1	6%
その他	2	13%

●ラインナップご紹介用冊子（営業店の窓口にご用意しております。）

投資信託 ファンドセレクション



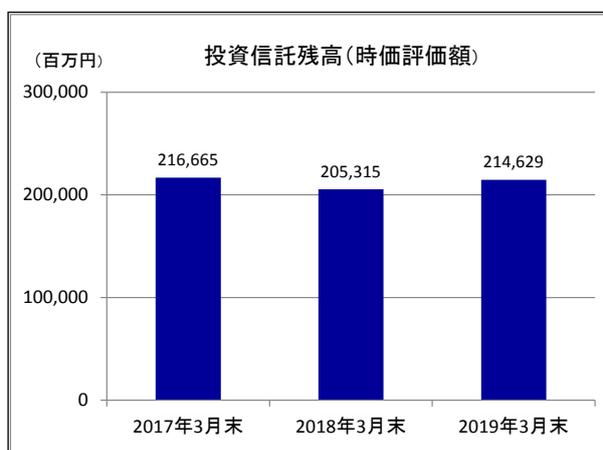
保険ラインナップ



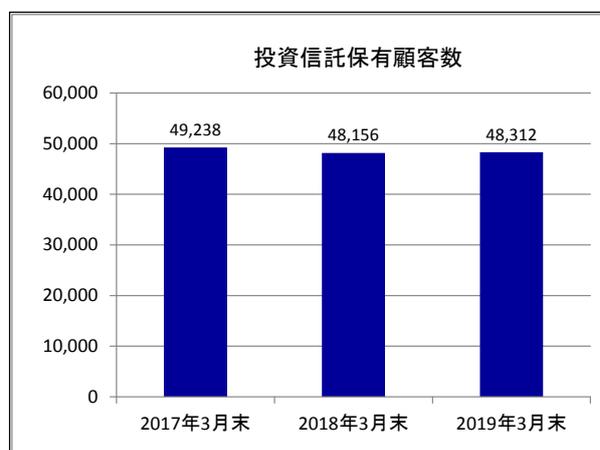
▶ 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

- ・先行きに不透明感のある金融マーケットの影響により、業界全体の投資信託残高（時価評価額）は前年比▲0.4%（注）でしたが、きらぼし銀行でお預かりしている投資信託残高は前年比+4.5%の増加となりました。
 - ・投資信託保有顧客数については、概ね横ばいで推移しました。
- （注）対象は公募株式投資信託（除ETF） 出所：投資信託協会

【KPI①】

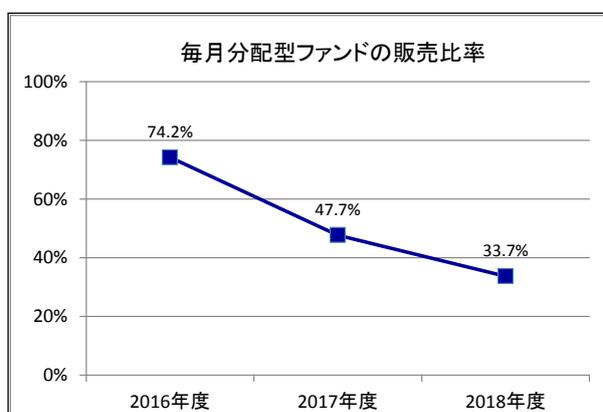


【KPI②】

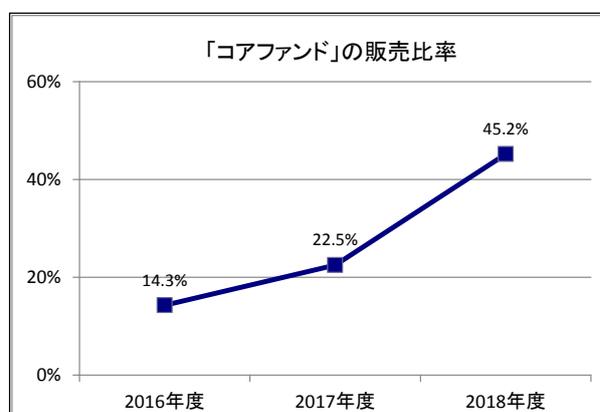


- ・お客さまニーズに相応しい金融商品・サービスを提供するため、「コア・サテライト戦略」に基づいた商品提案を推進した結果、投資信託販売額に占める毎月分配型の販売比率は低下し、「コアファンド」の販売比率が上昇しました。

【KPI③】



【KPI④】

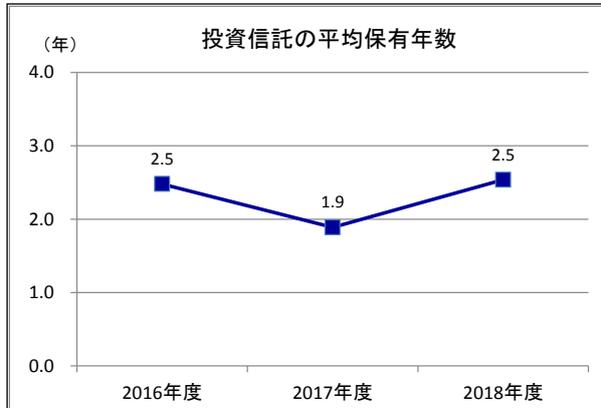


「コアファンド」とは、長期・分散・積立投資に適うバランス型ファンドや、円建債券等の比較的値動きの少ない安定的な資産へ投資するファンドとして、当行が選定したファンドを指します。

➤ 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

- ・長期保有を前提とする「コアファンド」の販売増加を背景として、投資信託の平均保有年数は2.5年へと長期化しました。引き続き、「コア・サテライト戦略」に則った提案を推進し、お客さまの長期・分散投資のニーズに応えてまいります。

【KPI⑤】

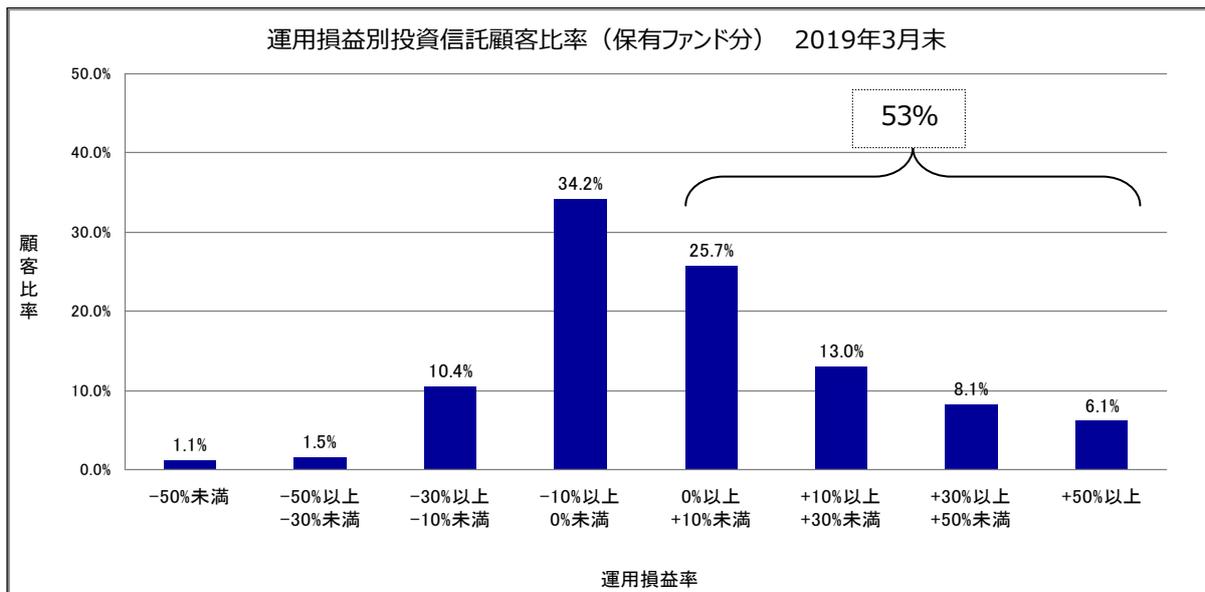


平均保有年数は、投資信託残高（過去1年間の平均）を解約・償還額（過去1年間の累計額）で除した数値です。

- ・きらぼし銀行で投資信託を保有しているお客さまの中で、保有ファンドの運用損益がプラスのお客さまの人数は、投資信託保有顧客全体の53%となっております。
- ・お客さまの運用損益の改善のため、良質な商品の選定と、適切なアドバイスの提供に努めてまいります。

【KPI⑥】

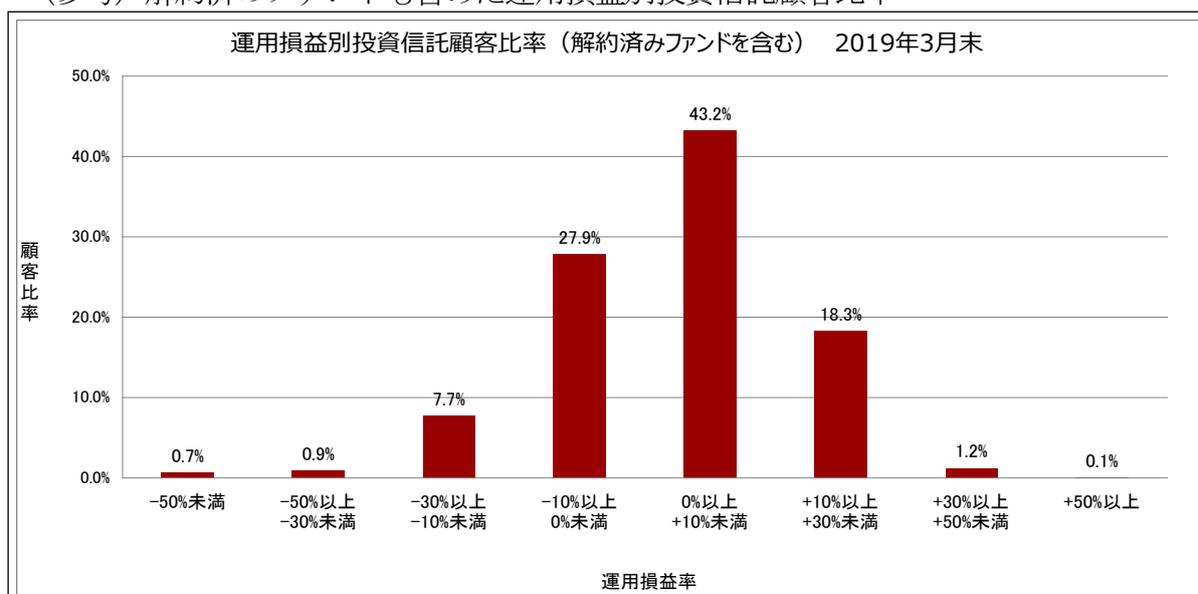
比較可能な共通KPI※
運用損益別投資信託顧客比率



※「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」については、P.10をご覧ください。

- 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

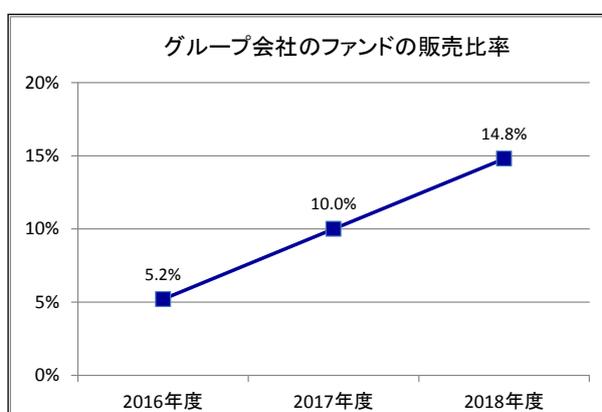
(参考) 解約済のファンドも含めた運用損益別投資信託顧客比率



2. お客さまと利益が対立する可能性のある取引の適切な管理

- ・2018年度は、投資信託を新たに10商品採用いたしました。そのうちグループ会社にあたるスカイオーシャン・アセットマネジメント株式会社の商品は2商品でした。
- ・グループ会社の商品を採用する場合、選考にあたって外部評価機関の評価を取得し、採用決定の指標とするなど、適切な商品選定を行っています。

【KPI⑦】



- 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

3. お客様にわかりやすい情報提供

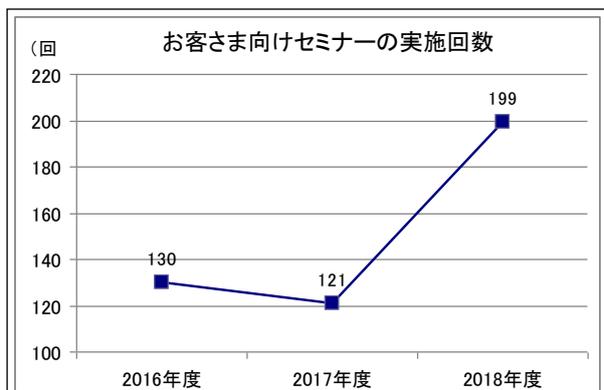
- ・お客様へわかりやすく情報を提供することを目的として、情報提供用冊子「マネープランガイド」「投資信託ガイド」等を作成・使用して、丁寧な説明を行っています。

●情報提供用冊子（営業店の窓口にご用意しております。）



- ・お客様への適切な情報提供を目的として、資産運用関連のお客様向けセミナーを各営業店で随時開催しております。2018年度は、支店長を講師とする資産運用セミナーなど、全店で延べ199回のセミナーを開催し、お客様に好評をいただいております。

【KPI⑧】



- 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

4. お客さまそれぞれに相応しいご提案や販売

- ・きらぼし銀行がお客さまへ販売している投資信託の商品ごとのコスト、リスクおよびリターンの平均値（注）は、前年よりも改善いたしました。
 - ・運用期間が5年未満のため指標には表れませんが、2018年度は期間限定でノーロードの商品を取り扱い、お客さまが負担する購入時手数料を削減いたしました。
- （注）平均値の算出にあたっては、設定後5年以上経過した投資信託の残高上位20銘柄を対象としています。設定後5年未満の銘柄は含まれていません。また、平均値は対象銘柄ごとの残高に応じた加重平均で算出しています。

残高上位20ファンドの平均値	2018年 3月末基準	コスト	リスク	リターン	シャープレシオ
			2.00%	13.04%	4.49%
残高上位20ファンドの平均値	2019年 3月末基準	コスト	リスク	リターン	シャープレシオ
		1.96%	11.69%	6.07%	0.52

《 2018年3月末の預り残高上位20ファンド（設定後5年以上経過） 》

2018年3月末 預り残高上位20ファンド 銘柄名	コスト(%)	リスク(%)	リターン(%)	シャープレシオ
1 ニッセイ豪州ハイ・インカム株式ファンド(毎月決算型)	2.44	16.74	2.61	0.16
2 新光US-REITオープン	2.19	15.10	6.40	0.42
3 ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	1.21	13.17	3.37	0.26
4 MHAM J-REITインデックスファンド(毎月決算型)	1.13	13.20	3.50	0.27
5 フィデリティ・USリート・ファンドB(為替ヘッジなし)	2.05	15.80	7.79	0.49
6 ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	2.44	11.70	4.84	0.41
7 フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	2.35	10.48	6.48	0.62
8 グローバル・ソブリン・オープン毎月決算型	1.67	7.59	2.31	0.30
9 ダイワUS-REITオープンBコース(毎月決算型)(為替ヘッジなし)	2.18	15.55	7.59	0.49
10 ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	2.16	14.45	6.01	0.42
11 野村インド債券ファンド	2.36	14.32	5.97	0.42
12 アジア好利回りリート・ファンド	2.35	13.74	6.39	0.47
13 ピクテ・アセット・アロケーション・ファンド(1年決算型)	1.92	4.82	1.24	0.26
14 三井住友・豪ドル債ファンド	1.87	9.68	-0.47	-0.05
15 ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2.21	14.17	4.61	0.33
16 ニッセイ/パトナム・インカムオープン	2.16	8.85	4.10	0.46
17 ファイン・ブレンド(資産成長型)	1.77	4.87	3.15	0.65
18 ピクテ資源国ソブリン・ファンド(毎月分配型)	2.27	10.43	-1.14	-0.11
19 世界三資産バランスファンド(毎月分配型)	1.62	8.01	4.83	0.60
20 インデックスファンド225	0.89	15.50	12.37	0.80

《 2019年3月末の預り残高上位20ファンド（設定後5年以上経過） 》

2019年3月末 預り残高上位20ファンド 銘柄名	コスト(%)	リスク(%)	リターン(%)	シャープレシオ
1 ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	1.21	8.76	8.41	0.96
2 ニッセイ豪州ハイ・インカム株式ファンド(毎月決算型)	2.44	15.92	2.63	0.17
3 新光US-REITオープン	2.19	15.30	8.98	0.59
4 ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	2.48	10.85	3.95	0.36
5 MHAM J-REITインデックスファンド(毎月決算型)	1.13	8.73	8.51	0.97
6 ピクテ・アセット・アロケーション・ファンド(毎月分配型)	1.92	4.19	1.58	0.38
7 フィデリティ・USリート・ファンドB(為替ヘッジなし)	2.05	16.02	10.18	0.64
8 グローバル・ソブリン・オープン毎月決算型	1.67	6.34	1.49	0.24
9 ダイワUS-REIT(毎月決算型)Bコース(為替Hなし)	2.18	15.56	9.96	0.64
10 フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	2.35	10.23	5.44	0.53
11 ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	2.16	14.34	7.57	0.53
12 ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2.21	13.99	5.87	0.42
13 野村インド債券ファンド(毎月分配型)	2.50	10.16	6.26	0.62
14 ダイワJPX日経400ファンド	1.14	15.25	6.87	0.45
15 アジア好利回りリート・ファンド	2.41	12.00	10.62	0.89
16 三井住友・豪ドル債ファンド	1.87	8.59	-0.02	0.00
17 次世代米国代表株ファンド	2.21	16.63	10.74	0.65
18 グローバル・アロケーション・オープン Bコース	2.35	11.96	3.65	0.31
19 ファイン・ブレンド(資産成長型)	1.78	4.47	3.41	0.76
20 ニッセイ/パトナム・インカムオープン	2.16	8.14	3.73	0.46

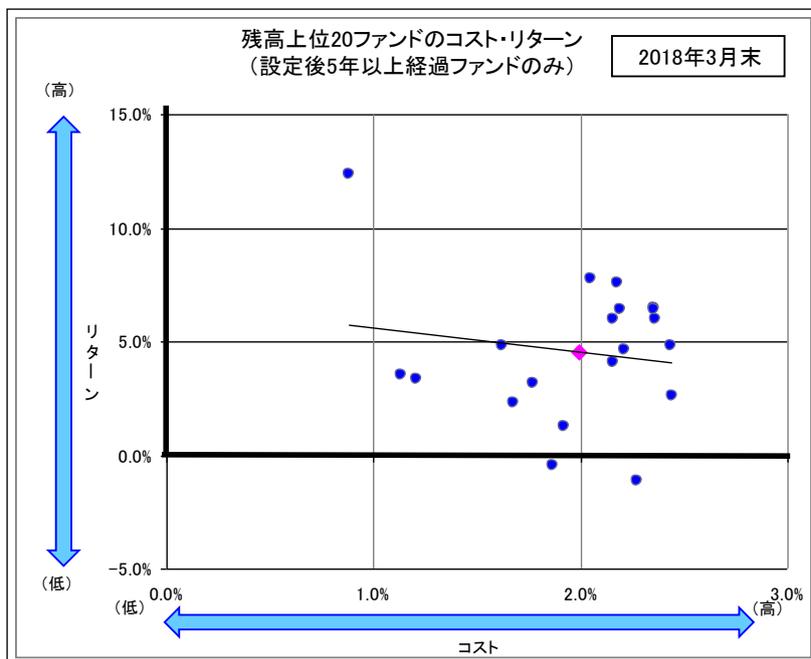
- 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

(ア) 取扱いファンドのコスト・リターン

【KPI⑨】

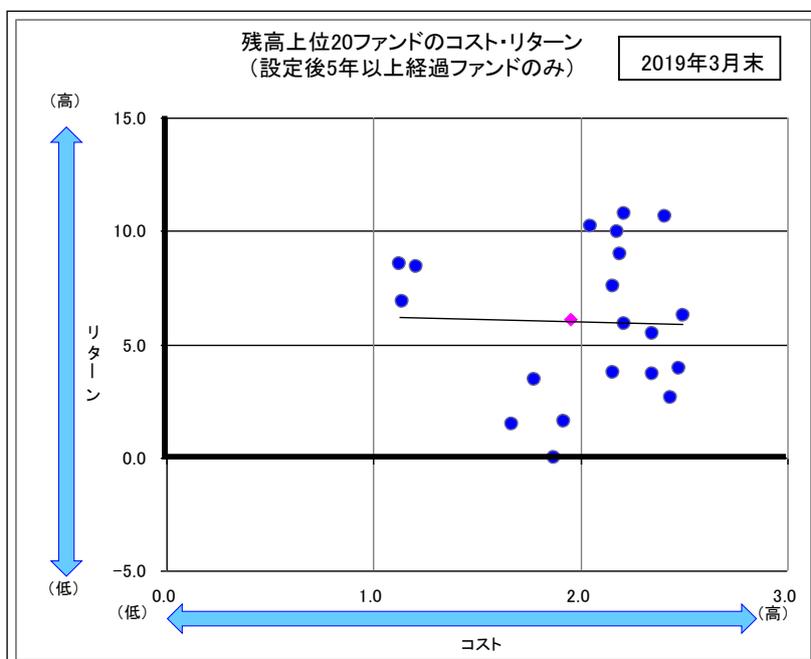
比較可能な共通KPI ※
投資信託の預り残高上位20銘柄のコスト・リターン

《 2018年3月末 》



◆ 残高加重平均	リターン	コスト
	4.49%	2.00%

《 2019年3月末 》



◆ 残高加重平均	リターン	コスト
	6.07	1.96

※「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」については、P10をご覧ください。

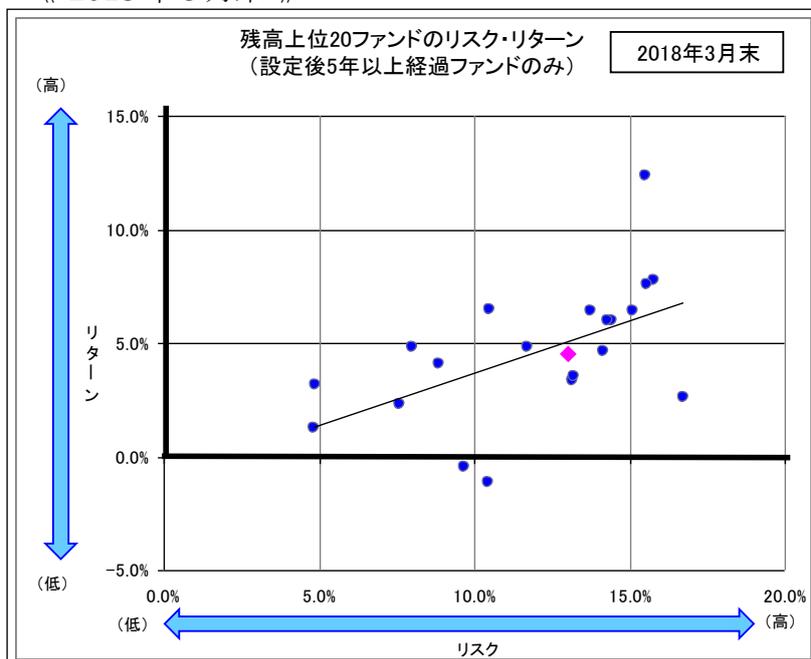
- 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

(イ) 取扱いファンドのリスク・リターン

【KPI⑩】

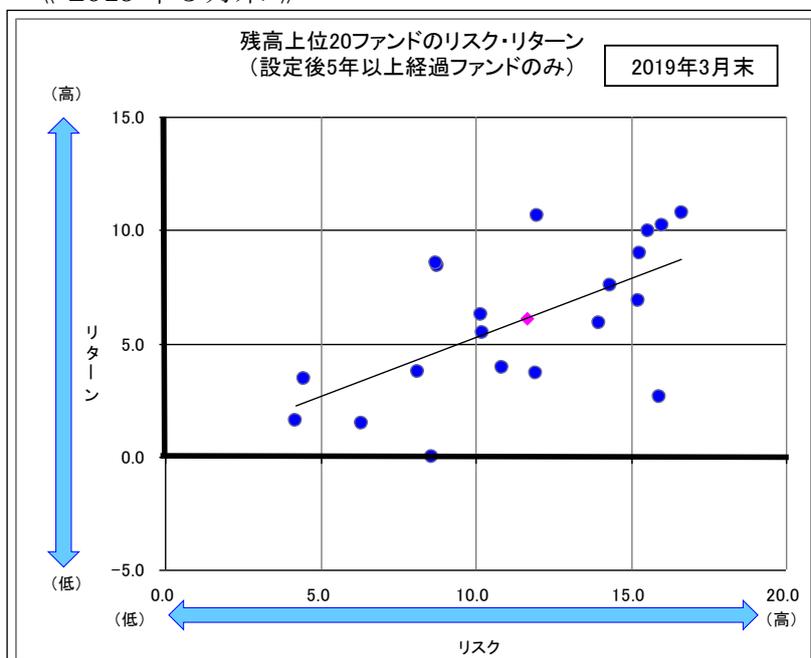
比較可能な共通KPI ※
投資信託の預り残高上位20銘柄のリスク・リターン

《 2018年3月末 》



残高加重平均	リターン	リスク
◆	4.49%	13.04%

《 2019年3月末 》



残高加重平均	リターン	リスク
◆	6.07%	11.69%

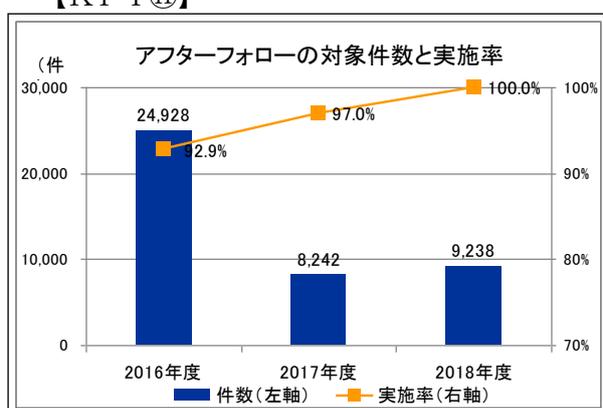
※「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」については、P.10をご覧ください。

- 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

5. お客様それぞれに相応しいご提案や販売・アフターフォロー

- ・きらぼし銀行で投資信託を保有しているお客様へのアフターフォローとして、一定の基準に基づいて、定期的にお客様フォローを実施しています。
- ・2018年度は、お客様フォローの実施率が100%となりました。今後も丁寧なお客様へのアフターフォローを継続してまいります。

【KPI ⑪】



2016年度は、合併前の各銀行でそれぞれ異なる基準に基づきアフターフォローを実施していたため、対象件数が多くとなっております。

2017年度から統一した基準に基づきアフターフォローを実施して

(掲載指標の一覧)

	指標の内容	
KPI ①	投資信託の残高	
KPI ②	投資信託の顧客数	
KPI ③	毎月分配型ファンドの販売比率	
KPI ④	「コアファンド」の販売比率	
KPI ⑤	投資信託の平均保有年数	
KPI ⑥	運用損益別投資信託顧客比率	*
KPI ⑦	グループ会社のファンドの販売比率	
KPI ⑧	お客様向けセミナーの実施回数	
KPI ⑨	残高上位20ファンドのコスト・リターン	*
KPI ⑩	残高上位20ファンドのリスク・リターン	*
KPI ⑪	アフターフォローの対象件数と実施率	

*・・・「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」に該当

- 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

○ 投資信託の販売会社における比較可能な共通 KPI について

長期的にリスクや手数料等に見合ったリターンがどの程度生じているかを「見える化」するための指標として考えられる、ビジネスモデルに依らず金融事業者間で比較が可能な以下の3つの指標のことを指します。「投資信託の販売会社における比較可能な共通 KPI」と考えられる指標であると2018年6月29日に金融庁が公表しております。

- (1) 運用損益別顧客比率
- (2) 投資信託預り残高上位 20 銘柄のコスト・リターン
- (3) 投資信託預り残高上位 20 銘柄のリスク・リターン

○ 指標の内容について

(1) 運用損益別顧客比率

きらぼし銀行で投資信託を保有しているお客さまについて、基準日（毎年3月末）時点で保有している投資信託に係る購入時以降の累積の運用損益を算出し、運用損益率（運用損益の金額÷基準日時点の時価評価金額）別に口座数の比率を示した指標です。基準日までに全部売却・償還された銘柄は含まれません。

(2) 投資信託預り残高上位 20 銘柄のコスト・リターン

きらぼし銀行でお預りしている設定後5年以上の投資信託の預り残高上位 20 銘柄について、銘柄ごと及び預り残高加重平均のコストとリターンの関係を表した指標です。

コスト	基準日時点の販売手数料率（消費税込み）の1/5と信託報酬率（同左）の合計値
リターン	過去5年間のトータルリターン（年率換算）

(3) 投資信託預り残高上位 20 銘柄のリスク・リターン

きらぼし銀行でお預りしている設定後5年以上の投資信託の預り残高上位 20 銘柄について、銘柄ごと及び預り残高加重平均のリスクとリターンの関係を表した指標です。

リスク	過去5年間の月次リターンの変動（年率換算）
リターン	過去5年間のトータルリターン（年率換算）

以上

▶ 2018年4月以前の各計数については、合併前の旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。